Ⅰ 前回の振り返り

配布資料-2

第2回目議題Ⅰ 「学校の適正規模と市内の学校の状況 」

<審議事項>
① 伊丹市における小規模校や大規模校の利点と課題とは。
② 学校の大規模化の解消に向けた対応方策とは。
③ 教育活動や学校運営にとって望ましい学校規模（学級数）とは。

主な意見	
●校長や教頭などの管理職の配置は学校ごとに限られているため、見ることのできる子どもの数にも限界があるのではないか。	①
●私が勤務している学校がまさに大規模校で、児童生徒数の増加に伴う普通教室の確保は重要な課題です。	①
●学習机も大型化していることから、教室が狭く感じられるなど、新たな教育環境の課題も生じています。	①
●「この学校に通わせたい」という思いを持っているご家庭もたくさんおられるため、大規模校の解消について、校区を変更すれば必ず児童生徒数が分散するとは限らないのではないかと思います。	②
●将来学校の統廃合を検討する場合でも、法令等で示されている通学距離の基準を踏まえれば、対応可能な面もある。ただし、地域への影響にも十分配慮しながら検討を進めていただきたい	②
●文部科学省が示す1校あたり12～18学級という標準規模を一つの目安としながら議論を進めることが望ましい。	③
●ただし、その数字に縛られ過ぎてしまうと柔軟性を失います。あくまで参考として頭の片隅に置きながら議論することが大切であると思います。	③

第2回目議題2 「子どもたちが多様化していることを前提とした学びのあり方①」

<審議事項>
① 子どもたちの個性や特性、学習進度、興味・関心などが多様化する中、20年先を見据え、今後の学校はどのような学びを展開していくべきでしょうか。
② 上記の学びの実現に向けて、必要となる教育の仕組みや教育環境にはどのようなものがあるでしょうか。
③ これからの義務教育を支える教員の資質向上として、必要な体制はどのようなものでしょうか。

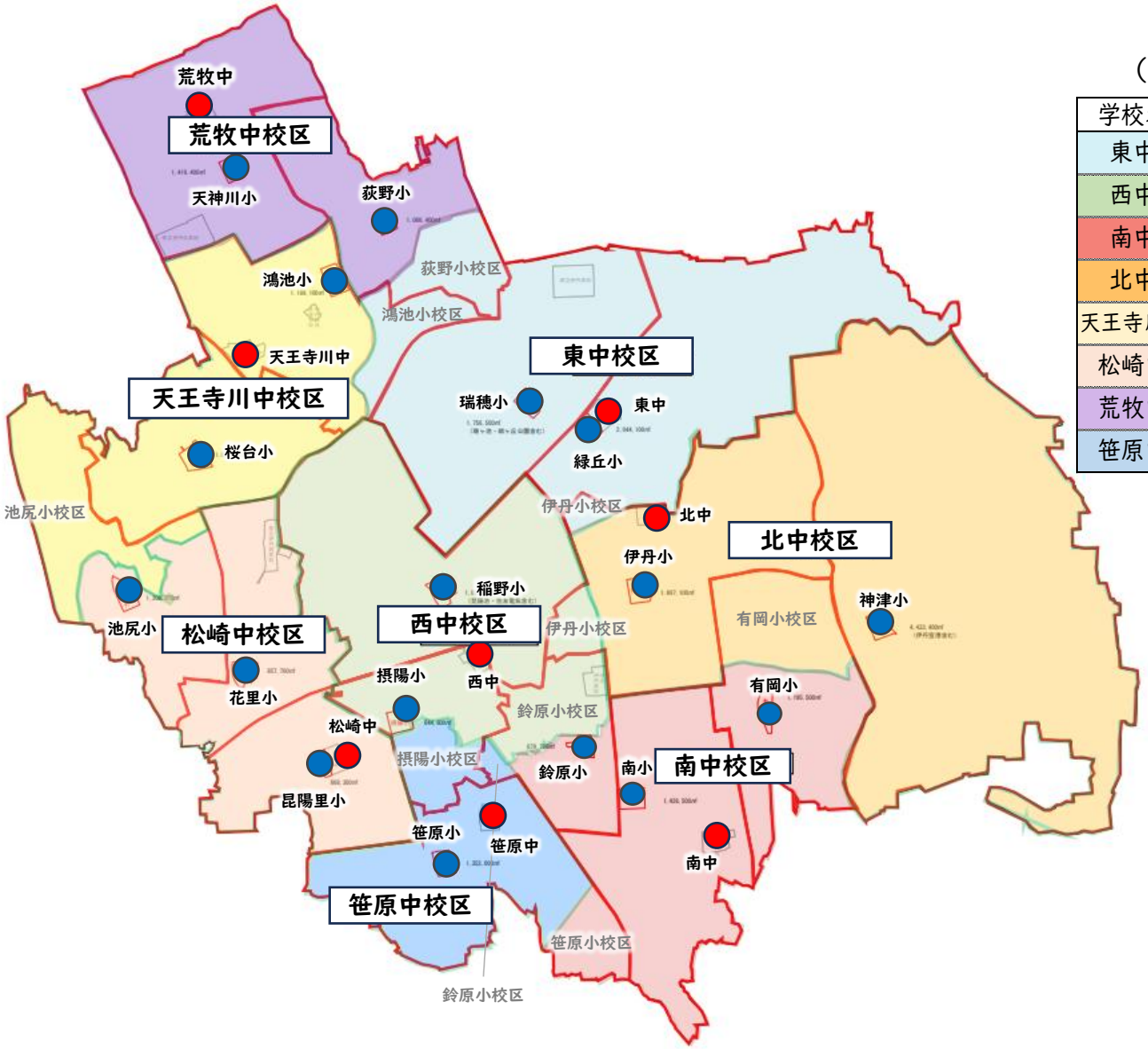
主な意見	
●教職員が前に立って授業を進める形が主流ではありますが、子どもたち同士が関わり合いながら学ぶ場面を意識的に取り入れていくことが重要だと考え、実践に取り組んでいます。	①
●これからは友達同士で考えを伝え合い、話し合いながら学ぶ機会を増やしていくことが大切であると思います。	①
●可動式パーテーションによって自由に部屋を区切ることができれば、多様な学習形態にも対応しやすくなります。	②
●少し落ち着けるスペースは、教室に入りづらい子どもや保護者、あるいは少し休憩したい児童などに有効に活用されています。	②
●教職員が考えなければならないことや負担も増えていくことが想定されるため、その点についても配慮していく必要があると思います。	③
●学校と地域が連携しながら子どもたちの学びや成長を支えていくことが大切である。	③

まとめ

✓多様な子どもを前提に、一人ひとりの可能性を伸ばす教育を実現するためには、「学びのあり方」だけでなく「教育環境」「適性規模」を一体的に考えることが重要です。
✓「カラフルな教育」を受けた子どもたちが20年後は地域や社会を支える存在となります。「カラフルな教育」を理念に、伊丹の未来の教育につなげていく。
▶多様な子どもたちへの対応 ▶一人ひとりの可能性を伸ばす教育 ▶地域の特色：強味の活用 ▶学校・家庭・地域の連携 ▶インクルーシブ教育

1　前回の振り返り
（第2回義務教育部会追加資料）中学校区

・・・小学校区境界線　・・・中学校区境界線　・・・小学校　・・・中学校



（参考：中学校生徒数・小学校対象校区）

学校名	生徒数	対象小学校区
東中	645	伊丹小、緑丘小、瑞穂小、荻野小、鴻池小
西中	551	伊丹小、稲野小、摂陽小、鈴原小
南中	717	南小、笹原小、有岡小、鈴原小
北中	753	伊丹小、神津小、有岡小
天王寺川中	754	桜台小、池尻小、鴻池小
松崎中	518	花里小、昆陽里小、池尻小
荒牧中	507	天神川小、荻野小
笹原中	361	笹原小、摂陽小、鈴原小

文字の色　・・・3校に該当

文字の色　・・・2校に該当

1　前回の振り返り
（第2回義務教育部会追加資料）小学校区と中学校区の対応表

令和8年度中学校区別の
小学校比率（概算）

小学校	中学校							
		東中	西中	南中	北中	天中	松中	荒中	笹中
	学級数	19	16	20	21	21	16	15	11
伊丹小	32	0.4%	2.0%		60.6%				
稲野小	29		65.7%						
南小	31			62.3%					
神津小	11				13.5%				
緑丘小	16	44.6%							
桜台小	20					41.0%			
天神川小	18							62.6%	
笹原小	26			9.3%					83.0%
瑞穂小	17	41.1%							
有岡小	19			18.2%	25.9%				
花里小	14						29.7%		
昆陽里小	18						51.3%		
摂陽小	12		21.1%						15.6%
鈴原小	15		11.3%	10.2%					1.5%
荻野小	19	8.5%						37.4%	
池尻小	17					23.8%	19.0%		
鴻池小	17	5.4%				35.1%			
		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

（国による学校規模分類）

小規模校	6～11学級
適正規模校	12～18学級
準適正規模	19～24学級
大規模校	25～30学級
過大規模校	31学級以上

2 審議スケジュール

〇は各回の主要事項、※は補足的に取り扱う事項

	回数	内 容／関係課	目指す教育の姿	教育環境	学校規模
全体会	第1回目	■ **諮問概要について（両部会に共通する事項）** ・諮問の趣旨、背景、戦略のイメージ、児童生徒数の推計について			
義務教育部会	第1回目	■ **義務教育部会の概要** ・審議テーマについて（目指す教育の姿、教育環境、学校規模の各々の説明と関連性）	〇	〇	〇
	第2回目 ①	■ **学校の適正規模と市内の学校の状況** ・国の学校規模分類をもとに、本市における小規模校や大規模校の課題について議論する。		※	〇
	第2回目 ②	■ **子どもたちが多様化していることを前提とした学びのあり方①** ・本市が進める「カラフルな教育」の現状と課題、次期学習指導要領の論点整理における多様性の包摂に触れながら、今後、どのような学びのあり方を目指すべきかについて議論する。	〇	※	
	第3回目 ①	■ **子どもたちが多様化していることを前提とした学びのあり方②　※本日議題1** ・増加傾向にある特別支援学級についてどのような対応を進めるべきか、また、中ーギャップや長期欠席児童生徒支援のあり方についてどのようにあるべきかについて議論する。	〇	※	
	第3回目 ②	■ **教職員の働き方改革について　※本日議題2** ・教育を支える教職員の働き方について、本市の現状と課題や国が進める働き方改革の動向を踏まえながら、教員が授業や教育活動に専念できる環境構築に向けて、どのような方策があるべきかについて議論する。	〇	※	
	第4回目	■ **小中一貫教育の推進について** ・小学校と中学校の学びの接続について、本市の小中一貫教育の取り組みに係る現状と課題や、近隣団体の取り組みを踏まえながら、どのようなビジョンを描き、進めていくかについて議論する。	〇	※	
	第5回目	■ **教育環境と学校適正規模について** ・これまでの議論を振り返り、施設環境等の教育環境と学校適正規模のまとめを行う。		〇	〇
	第6回目	■ **答申案の策定に向けて（部会のまとめ）** ・これまでの議論を振り返り、審議の三つの観点のまとめを行う。 ・令和7年の国勢調査結果（速報値）を基にした最新値を基に、児童生徒数推計を確認する。	〇	〇	〇
全体会	第2回目	■ **答申案の策定に向けて（全体のまとめ）** ・ 両部会の審議経過の確認、答申案を確認する。			